

かたよらず易^{かわ}らない中庸の道を守ることをねがい、

中

ちゅう

庸

よう

を

庶

こい

幾

ねが

い、



東●

冬



微●

功があつても驕らず、自らを慎み戒めて生きたいものだ。

功

ろう

謙

けん

して

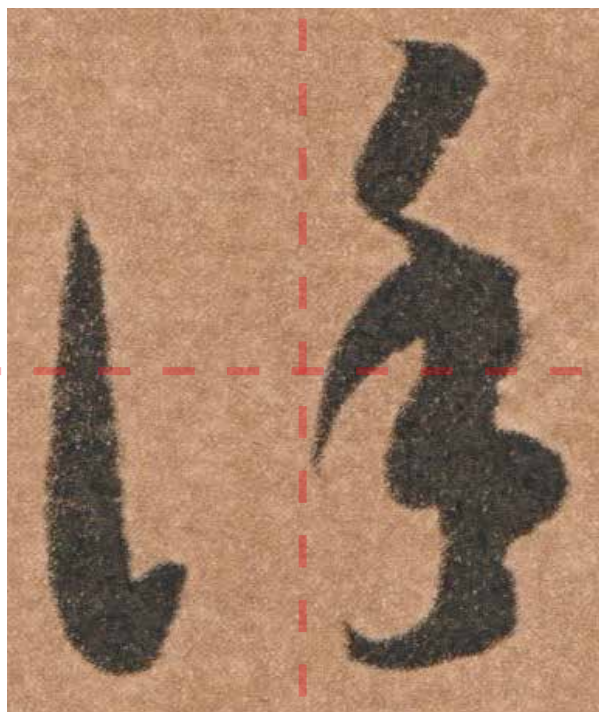
ほ

きん

お

ちよく

にす。



支

豪●

塩●

人の話を注意深く聞いて真意を知り、



おと



き

いて



り

を



さつ

し、



青

侵

顔や表情をよく視て感情の動きを知ることだ。



かたち



かんが



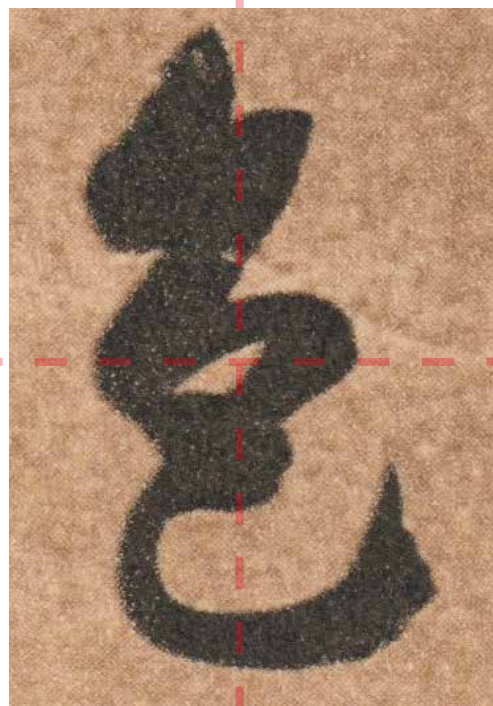
いろ



べん



咸



善い道や考えを子孫に遺す、



そ



か



ゆう



のこ

し、



麻



支



尤



●

ただそのために慎み深く勉める。

※つつしむ。

主

そ

の

植

し

植

しよく

を

勉

つと

む。

植

植

勉

主

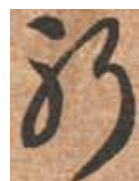
支

●

●

支

自らの行いを省みて戒めることが大切だ、



み



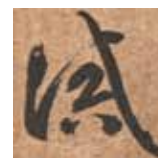
かえり

みる



そし

りの

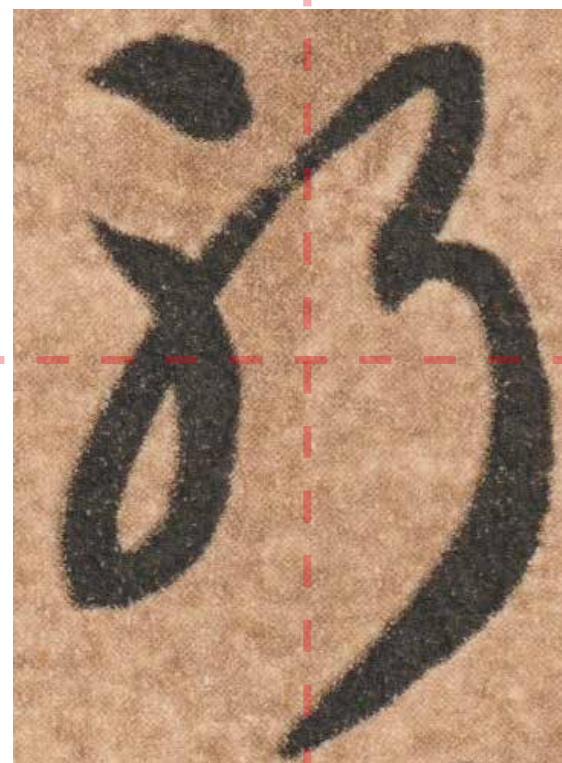


しまし

め、



微



東

栄誉を得れば驕り高ぶるので、十分に身を慎むべきである。

寵

ちよう

増

ま

さば

抗

はば

むこと

極

きわ

まる。

抗

極

寵

増

高位に昇るほど人から妬まれて、恥辱を受けることが多くなる。

る

じよく

に

ちか

く

はじ

死

ちか

きときは、



その時は好機を見て引退し、山林や湖沼に囲まれた閑静な所へ退きたいものだ。

林

りん

幸

こう

にら

っ

かんことを

ずえ

ねが

え。



侵

豪